

Challenge! 働き方改革



君津市立八重原小学校校長 おおた 太田 ゆかり

1 はじめに

「働き方改革は、教職員が余裕を持って子供と向かい合う時間を確保し、子供たちの笑顔と成長にやりがいを持って職務に邁進していくことができるためのもの」である。しかし、教員不足や教員志望者の減少は続き、それは現場である学校にそのまま影響を与えている。働き方改革の目的を達成するためには、様々な観点から教職員の環境改善の取組が検討され、行われる必要がある。そのような中、どの学校もこの目的を達成するために、いろいろな取組を行っている。

以下は小さな一歩として、これまで本校で取り組んできた内容である。まだまだ検討、実施できることが多い状況ではあるが、取組の中に参考になるものがあれば幸いである。

2 本校の取組

(1)ICT 機器の活用

①校務支援システムの活用

君津市では、出席簿・通知表・指導要録等の作成において、校務支援システムの活用が、職務の効率化に大きな役割を果たしている。その中で、月の途中や月末に校務支援システム内の「出退勤簿」で、自分の時間外勤務時間を確認することにより、業務改善を考え、客観的に見直す機会となっている。

②会議、打ち合わせの効率化

職員会議資料のペーパーレス化、校務についての共有フォルダ内の連絡シート (Excel) を併用した打ち合わせの簡略化により、会議

や打ち合わせの就業時間外への延長がほぼなくなった。

③Google Forms の活用

欠席・遅刻の連絡、個人面談の日程調整等に活用しており、その他にも活用の場面が増えている。

欠席・遅刻の連絡については、朝の職員室での電話対応が大幅に減り、これまでよりも落ち着いて朝のスタートを切ることができている。また、面談については、集計・調整に関わる作業が軽減され、業務改善に大きくつながった。

(2)行事、教育活動の見直し

ICT 機器の活用や日課時程の見直し等により、時間の縮減を図り放課後の事務業務時間を増やすことができるようになった。それに伴い行事の見直しについても「単純になくす」のではなく「見直すこと」について客観的な観点で検討されることが増えた。

①通知表について

発行回数を減らし、所見の記載について見直しを図った。これにより学期末に行う個人面談の目的と意義を再認識し、改めて内容について確認することができた。

②運動会・入学式・卒業式の内容と取組の見直し

特にこれについては、「ただコロナ禍前に戻すのではなく、現状を見極めた上で、活動を考えて実施する」ことを念頭に、内容や練習時間の検討を行っている。

③家庭訪問、授業参観、PTA親子活動の実施形態の変更

家庭訪問を家庭確認とし、その方法についても修正を加えている。また、これまで職員の企画に負うところが多く、負担となっていた親子活動を、学年ごとに決まった内容としてマニュアル化し、PTAの協力も得ている。

④学年、学級経営案の見直し

目標申告シートの活用により、経営案の様式を改善した。目標申告シートに具体的な内容が記入され、経営案が簡潔にまとまり、確認しやすい様式とした。

⑤日課時程の見直し

昨年度3学期に保護者に周知した上で、(総合所見の記載の変更も含む)今年度から教育課程を見直し、日課表の工夫、改善を行うことができた。下校時刻を早め、先生方の業務時間を確保し、翌日の準備ができることで、子供たちと向き合う時間を増やすことにつながった。放課後の時間だけではなく、余裕をもって授業時数を確保できるため、大きな行事前や年度後半に授業時数を調整することも可能となった。

A日課	
8:05~ 8:20 朝の会	
8:20~ 9:05 1校時	
9:15~10:00 2校時	
10:00~10:15 業間(15分間) ※10:15 予鈴	
10:20~11:05 3校時	
11:15~12:00 4校時	
12:00~12:40 給食(40分間)	
12:40~13:05 昼休み(25分間)	
13:10~13:25 そうじ(15分間)	
13:30~14:15 5校時	
14:15~14:30 帰りの会	
14:30~15:15 6校時	

【木曜日(B日課)】
給食まではA日課と同じ
12:50~13:35 5校時
13:35~13:50 帰りの会
※ゴミ拾い等させる。
13:50~14:35 6校時

変更点としては、「朝の帯取り学習をなくす」「昼休みを5分短縮」「週に1日通常清掃をなくし、ごみ拾い等」とした点である。

(3)市教育委員会との協働

市教育委員会から年度初めに平日5日間の準備日数確保、保護者による朝・夕電話対応の時間制限、管理職・教諭による週案のコメント欄記入の廃止等、具体的な提案が示されている。また、それに伴う保護者や地域への配付文書の作成等、学校の働き方改革に向けて先頭に立ち推進くださっている。校内での取組を進めるにあたっては、このような市教育委員会との協働は支えとなり、心強いものとなっている。

3 これまでの取組を振り返って

コロナ禍を経て、「見直すには今」という共通した捉えのもと、様々な取組を行ってきた。一つ一つの取組の見直しを積み重ねる中で、プラスの方向性で「見直すことができることは何だろう」という視点を持って、考える職員集団が育っている。「こんな方法で取り組んでみては?」「他校ではこんなふうに取り組んでいるそうだ。」など、アンテナを高くし、提案をしてくれる職員が増えてきた。校長が自分自身で具体的な対応を考えることは勿論であるが、ボトムアップ型の取組は、「みんなで取り組もう」という意識を高めることにつながっている。加えて、学校の試みについて、保護者の方々のご理解を得られる恵まれた状況の中で、本校の働き方改革を進めることができることに感謝している。働き方改革もまた、「人ありき」だと考える。

教職員が子供との向き合う時間を確保し、より一層のやりがいを持って仕事に向き合うことができるよう、「今できることは何か。」ということを念頭に置いて、引き続き働き方改革を進めていきたい。